

6倍速で進む「気候崩壊」

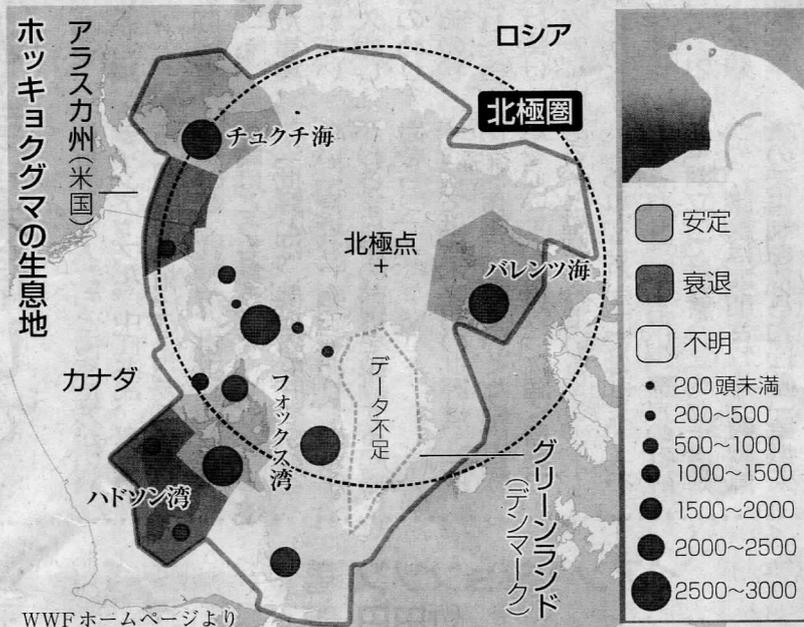
◇海氷に依存

北極の食物連鎖の頂点に立つホッキョクグマの学名は、ラテン語で「海のクマ」を意味する。スバルバル諸島には約300頭が生息。移動や休息、捕食、子育てなど生活サイクルのほぼすべてで海水を必要とし、主に海氷上にいるアザラシを狙って狩りをする。

極寒の海で生き抜くためには、大量の脂肪が必要だ。ノルウェー北極大のヨン・アイシ上級研究員は「ホッキョクグマは春に交尾をしても、母親が十分な脂肪を蓄え、栄養状態が良くなるまで受精卵は着床しない。繁殖にはアザラシのような脂質の多い獲物が必要不可欠だ」と説明する。

◇止まらぬ温暖化

スバルバル諸島では1971年以降、年間平均気温が4度上昇した。ファウセ知事は「約15年前に赴任した時はスノーモービルで海水の上を渡り、フィヨルドの対岸まで行



ワード **ホッキョクグマ** 地上最大の肉食獣の一つで、大きい個体で体長約2.5m、体重約800kgに達する。米国やカナダ、ノルウェー、ロシア、デンマーク領グリーンランドの北極圏に生息する。寒冷地で生存するために脂肪を蓄える必要があり、主にアザラシを捕食する。俗に「シロクマ」とも呼ばれるが、地肌は黒色。体毛は透明で中が空洞のため、散乱光によって白く見える。(時事)

くことができた。だが、今年の冬は海水温が高く、海を覆った氷は1週間で割れてしまった」と語る。

近年は永久凍土が解け、降水量も増加した。「地滑りや雪崩が頻繁に起きるようになった」と語る。

「た」と同知事。南方の暖かい地域に生息していた鳥が移り住み、在来種の数は減り続けているという。

北極の海水減少に伴い、ホッキョクグマが獲物を狩る期間は短くなっている。カナ

ダ北東部ハドソン湾では、ホッキョクグマの個体数が21年までの5年間で27%減少。今世紀末までに世界中に生息する推計約2万6000頭が、ほぼ絶滅するとの予想もある。